

8月9日(月・休)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほほ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



© 青柳聡

これを聴き逃すのはもったいない！

8月8日 昭和音楽大学

毎年ハズレ無し!……と断言できるほど、素晴らしい演奏を聴かせてくれる昭和音楽大学。何度でも繰り返すが、サマーミュージックの他の公演には足繁く通いつつも、この公演を聴き逃すなど、なんと損をしていることだろう!

今年は、1曲目の《コリオラン》序曲こそ硬さがあって、やや単調なきらきがかったが、2曲目のベートーヴェン：交響曲第8番からは、冒頭から管弦楽全体がふくよかに鳴り響きつつ、同時にすべての声部が明晰に聴こえてくるという文句なしのバランス感。問題になり

やすい第1楽章の再現部冒頭も、上～中声部のハーモニーを楽譜通りのフォルテシッシモ(fff)で鳴らしつつ、低声部の主題がきっちり聴こえるのは爽快この上ない。第4楽章のラストまで見事に駆け抜けていった。(具体名は避けるが筆者が前回、同曲を某プロオケ、某指揮者で聴いた時より何倍も素晴らしい!)

後半は打って変わって、ストラヴィンスキー祭り。まずは複雑な《サーカス・ポルカ》でも保たれる明晰さに目が見開かされたが、この日の意外な白眉となったのが

初期作《火花》。どうしても後のストラヴィンスキーの作風に引きずられ、モダンな作品として解釈されがちなのだが、山下とオーケストラはロマン派的な音楽として、本作の見どころがちな魅力を引き出す。この日の最大編成ということもあって、満足度の高い演奏となった。もちろん同時期の《火の鳥》も悪いわけがなく、傷があったとしても指揮の山下は安全運転せずに攻め続け、音楽の自然な流れと勢いが途切れない。感動的な終曲まで、心地よい緊張感を堪能できた。(音楽ライター 小室敬幸)



(左から)去川聖奈さん(Vn)、指揮の山下一史さん、砂原千聡さん(Vn)。

お客様から

コロナだし台風だし、他にもたくさん聴いたし、暑くて疲れてオリンピックもいよいよ終わりだから、今日は家でテレビでも見ようと思ったのですが、雨が上がったらいでもたつてもいられずに当日券で聴きました。学生諸君、立派だったぞ。金メダル!(54才・地方公務員・本当に地方公務員)／いままで聴いたことがない、すてきなコリオラン序曲、「火の鳥」でした(58才・無職・PT)／「火の鳥」を大変楽しみにしていました。弦楽器の繊細なハーモニーと木管の優しい調べをつき破るように打楽器が響き渡るところは本当に圧巻でした(62才・会社員・小夏)／火の鳥の最後が音が大きくて、吹き飛ばされるかと思いました。思わず目をつぶってしまいました(9才・小学生・Kaino)／今日は、朝からアーカイブ三昧。15時から昭和音大のライブ配信。大学生のレベルがとでも高くなっていて、プロの楽団のレベルが上がるわけだと妙に納得(匿名)／若さ爆発の熱演でした!(62才・自営・風)

かわさき=ドレイク・ミュージック アンサンブル プロジェクト

本日演奏する《かわさき組曲》は、英国ドレイク・ミュージックの音楽家であるベン・セラーズと、日本の音楽家12名、川崎市内の3校の特別支援学校に通う生徒27名と教員18名でつくりあげたものです。2021年5月～7月にかけて、のべ20回開催された音楽づくりのワークショップを通して生まれました。障害のあるなしにかかわらず、あらゆる人が音楽に親しみ、創造性を発揮できる社会を実現するためのこのプロジェクトについて、詳しくはサマーミュージックの公式サイト「関連イベント」をご覧ください。



前回のクイズの正解発表

8/8出題のクイズ「原田慶太楼さんがはまっているもの」は④すべてでした!

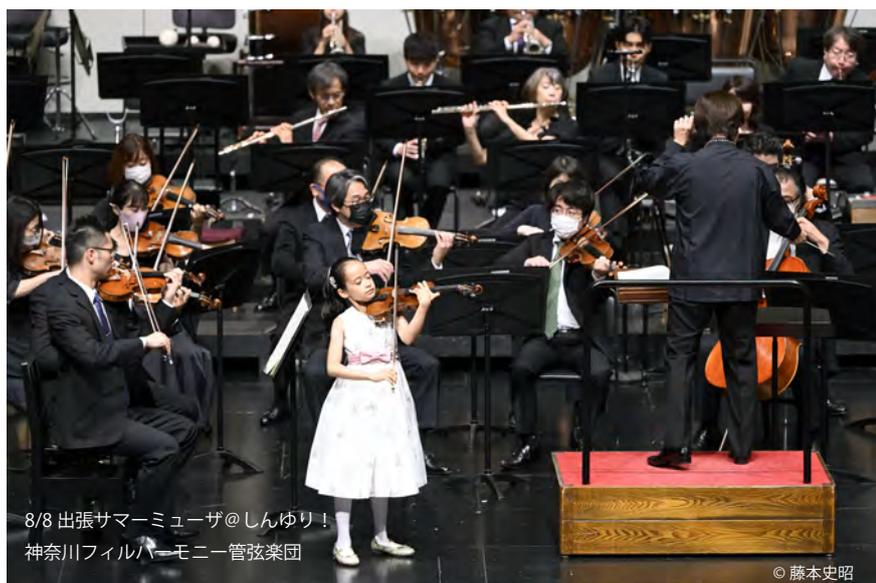
日本人作曲家、家で焼き鳥、ダイエット。マエストロが今はまっているものさそうです。ちなみに焼き鳥はオープンで焼くそうですよ。美味しそう!

本日の日本人作曲家「吉松隆」さんをどう料理されるのか、楽しみですね。

夏音クイズはこちらで最終回。皆さんはいくつ正解できましたか?



楽曲の魅力再発見！そして輝く才能との出会い—豪華絢爛なチャイコフスキー・プログラム



お客様から

卓越したテクニックの天才少女は世界に数あれど、今晚のソリストはそれだけに非ず。チャイコフスキーの情熱を自らの演奏に乗り移らせての熱演、特に第2楽章でのオーケストラ支配力が秀逸!(61才・ジャーナリスト・ヒロ・ミハヤエル) / 吉村さんに感動しました。大人の域のテクニックと、あの歳にしか出せないピュアさを兼ね備えた奇跡の音楽だったと思います(49才・公務員・ふっじい) / はじめてのクラシックコンサートでしたが、思ったよりも楽しかったです! 神奈川フィルの皆様、渡邊一正さん、吉村妃鞠さん、そしてチャイコフスキーの世界観に2時間ずっと引き込まれてました(15才・学生・うみのおと)

8/8 出張サマーミュージア@しんゆり!
神奈川フィルハーモニー管弦楽団

© 藤本史昭

いよいよ今年の「フェスタサマーミュージア KAWASAKI」も終わりを迎えようとしている中、渡邊一正の指揮と神奈川フィルハーモニー管弦楽団のタッグによるオール・チャイコフスキー・プログラムは、輝かしいフィナーレへのバトンをつなぐ公演となった。最初に演奏されたのは歌劇「エフゲニー・オネーギン」の「ポロネーズ」。渡邊は抑制した音楽運びで、リズムやハーモニーの美しさが際立つように音楽を構築。これはプログラム全体においてとても効果的で、次の「ヴァイオリン協奏曲」へと自然に

移行する。協奏曲のソリストは9歳のヴァイオリニスト吉村妃鞠。国内外39のコンクールをすべて1位受賞という圧倒的な経歴だが、決して気負うことのない演奏で、非常に流麗な演奏を聴かせた。テクニックは非常に緻密だが、音楽は非常にのびやか。作りこみすぎない歌いまわしが心地よく、音楽とまっすぐ向きあっていることがよく伝わる。何より音色が魅力的だ。高音の美しさには特筆すべきものがあり、きっと将来はスケールの大きな国際派のヴァイオリニストに成長してくれることであろう。

後半はチャイコフスキーの3大バレエからの抜粋。渡邊の指揮はオーケストラに細かい指示はあまりせず、かなり自由に歌わせている。動きは最小限で、“流れ”を感じさせる音楽運びの中でダイナミクスを絶妙にコントロールしていく。そのため非常に立体的な音楽として聴こえ、旋律同士の絡み合いやハーモニーの移ろいが鮮やかに聴こえてきた。楽曲の魅力の再発見、期待の新星の輝く才能との出会いに恵まれた公演であった。(ピアニスト/音楽ライター 長井進之介)



パートナーショップのご紹介
エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki

優待券を
ご提示下さい

ラ プチ フロマーゼリー
~小さなチーズの店~
ラチッタテッラ マッジョーレ 1F
パートナーショップ特典
ワンドリンクサービス ※お食事ご利用の方

イタリア風街並みの小さなチーズのお店

おうちごはんや家飲みも種別が増えてきた今日この頃。川崎駅東口のラ・チッタテッラのチーズバルでこんなテイクアウトを見つけました! 世界各地の選りすぐりチーズ32種類から5種類を選ぶと、その場で切り出してくれます。この日選んだのは、ゴルゴンゾーラ・ドルチェ、タレッ



ちょっと贅沢な家飲みチーズ1,000円(税込)

ジョ、プロボローネ・スモーク、サンタンドレ、コンテ18か月。個別に買ったら結構値の張るものばかりで、かなりのお得感。昔買ったチーズ図鑑も取り出してつまみにし、安ワインでもちょっと贅沢な家飲みタイムになりました。次回は初めてのチーズにトライしてみようと思っています。(GRA)

ほととする半面、寂しいこともあり、夏のバカンスを満喫している4人の大作曲家に会えなくなるのです。全国の小中学校の音楽室に掲示してある4人の大作曲家たちの肖像画を、ミュージア・サマーフェスタバージョンに張り替えたら、音楽好きの子どもが増えるのでは...なんて考えるのは私だけでしょうか?

(広報営業・Y)

サマーミュージア公式サイト
https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/



#サマーミュージアで投稿してください!



Twitter: @summer_muza



Facebook: @kawasaki.sym.hall



Instagram: @muzakawasaki

毎日サマーミュージア
Hobo Nikkan Summer Muza

スタッフ日誌

毎日暑い日が続いています。毎日は暑い日が続いています。夕方以降も日本特有の蒸し暑さが納まる気配はありません。皆様も寝苦しい夜を過ごされているのではないのでしょうか...。